

生田の風

川崎市立生田中学校
学校だより 第310号
令和6年12月18日



誰かのために、みんなのために、そして自分自身のために

校長 中村 隆英

朝夕の寒さも厳しくなり、冬晴れの日には冠雪した富士山が見られるようになりました。生田中学校は12月1日に昭和22年の開校から77年を迎えました。12月10日には「地域の皆さんと語り合おうの会」を行い、生田中学校の同窓生をはじめ生田地区で様々な活動をされている方々と中学生が、生田中学校を取り巻く環境などについて語り合いました。生田の歴史を振り返る、生田地区の取り組みを知る、今の中学生の思いや考えを知るなど互いに交流を図ることで、生田の地域、生田中学校への理解や愛着を深めることにもつながったのではないかと思います。また、3年生は昨年度、2年生は今年度11月に、生田地区を中心に職場体験を行い、地域の方々に大変お世話になりました。興味関心のある職業に限らず、どんな仕事にもやりがいや苦労があることを体験し知ることが、今後の社会生活を送る上でも有意義なものだと考えています。生徒の感想に、「職場全体で一つのチームのようでした」「わからないことを聞くことは恥ずかしいことではないと教えてもらいました」「誰かのためになることの楽しさを知りました」「裏では様々な配慮があることを知りました」などあらためて働くことの意義を感じ、仕事を終えた後の達成感や周りの人から認められ褒められた時の充実感を抱いたようです。

これからも、地域においては様々なお立場の方々の関わりを通して、学校においては生徒会活動や部活動、行事など様々な経験を通して、誰かのために、みんなのために、そして自分自身のために、苦手なところは助け合い協力しながら、そして工夫し努力しながら、時には失敗もしながらも、それぞれの役割によって責任を果たすことができるように、子どもたちの学び、成長を支えてまいりたいと思います。

地域で育ち、地域でつながり、共に地域をつくる

12月10日(火)には地域の皆さんと語り合おうの会、12日(木)には小中交流体験が行われました。どちらの行事も、同じ生田地区で生活する方々とのつながりを大切に、継続している活動です。

～地域の皆さんと語り合おうの会～

生田地区に縁のある35名の方々が来校し、講師として生徒たちと共に語り合いました。「生田地区の歴史」や「SDGs」をテーマに、自分たちが暮らしている地域について世代を超えて交流をする有意義な時間となりました。

～小中交流体験～

生田・三田・東生田の三小学校の6年生が、授業と部活動の体験をする小中交流体験が行われました。生徒会役員が企画したオープニングステージに笑顔がこぼれ、期待に胸を膨らませながら授業や部活動に参加する姿が見られました。